

インドネシア 遠隔放射線診断システムのビジネスモデル検討上の課題

（１）具体的な料金モデルの確立

具体的な料金モデルを確立するためには、現地代理店（HIS等）との連携・協業の内容、クラウドベンダーの利用条件（設定）別料金、現地リース事業者の対応力・料金水準等、関係するパートナーに関する料金・費用等の特定が必要であるが、本事業期間中にこれを実現することが難しかった。そのため、料金モデルについては前項等でその方向性を示すにとどまっている。

（２）インターネットの安定性の向上

地元で強いISPベンダーを採用し、VPNを構築し、事前の回線速度テスト等を行った上で実証調査に臨んだにもかかわらず、利用者からは、時折*iPadを利用した画像の読み込みに時間がかかる*との指摘がみられた。地方部におけるインターネットの回線速度については懸念が残るため、さらなる検討が必要である。

（３）患者情報の保管

インドネシアでは、患者情報の管理について、政府の姿勢が明確ではない。患者情報を海外のサーバー上に保管することの是非、国内外のサーバー上に保管する場合に必要な措置等についてはガイドラインもなく、実例も豊富ではない。今回は、放射線画像情報と患者情報を切り離すことで、個人情報を含まないデータとして海外のクラウドサーバー上に保管したが、今後は政府の見解等に留意しつつ、必要ならば現地クラウドベンダーと連携する等、必要な対策をとる必要がある。